

【基準耐力シート】

名称 建築太郎邸部分評点計算書

作成者 安心 丈夫

のセルにのみ入力してください。

A表：既存壁（改修を行わない壁）の耐震要素入力欄

要素番号	名称	部位	仕様 【プルダウンにない仕様は、シート下方に追記してください】	基準耐力 (kN/m)	耐力 (kN/m)
01	既存壁1	壁1	14:外-木ずり下地モルタル塗り(2.2)	2.2	5.80
		耐震要素	05:筋交い 45x90 【釘打ち】(2.6)	2.6	
		壁2	40:内-ラスボード(1.0)	1.0	
02	既存壁2	壁1	37:内-石膏ボード張り(厚9以上)【胴縁仕様】(1.1)	1.1	4.70
		耐震要素	05:筋交い 45x90 【釘打ち】(2.6)	2.6	
		壁2	40:内-ラスボード(1.0)	1.0	
03	既存壁3	壁1	40:内-ラスボード(1.0)	1.0	2.00
		耐震要素			
		壁2	40:内-ラスボード(1.0)	1.0	
04		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
05		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
06		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
07		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
08		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			

B表：改修壁の耐震要素入力欄

要素番号	名称	部位	仕様	基準耐力 (kN/m)	耐力 (kN/m)
11	改修壁1	壁1			6.20
		耐震要素	08:構造用合板(5.2)	5.2	
		壁2	40:内-ラスボード(1.0)	1.0	
12		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
13		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
14		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
15		壁1			0.00
		耐震要素			
16		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
17		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
18		壁1			0.00
		耐震要素			
19		壁1			0.00
		耐震要素			
		壁2			
20		壁1			0.00
		耐震要素			

※該当する仕様がな場合は、ページ下方にある「壁仕様リスト」の空欄に「仕様名称」と「壁基準耐力(kN/m)」を入力してください。

【判定シート2012】 【現況】

のセルにのみ入力してください。

名称 建築太郎邸部分評点計算書
 作成者 安心 丈夫

C表：諸条件入力欄

建物仕様	2:重い建物	積雪割増	なし	1F面積①	72.77	m ²	算定範囲の面積	15.52	m ²
建物階数	2:2階建て	積雪深(m)		2F面積②	34.93	m ²	配置係数 _e K _{fl} 【現況】	X	1.00
基礎仕様	2:基礎Ⅱ	軟弱地盤	なし	R _{fl} (②÷①)	0.48			Y	1.00
接合部仕様	4:接合部Ⅳ	形状割増	なし	q _{Kfl} [表1参照]	0.69		劣化係数 _d K _b 0.9を上限とする		0.7

D表：部分必要耐力の算定【表1参照】 入力不要：自動計算

算定範囲の面積	×	(係数	×	q _{Kfl}	+	積雪割増)	×	地震地域係数	×	地盤割増	×	形状割増	=	必要耐力
15.52	×	(0.92	×	0.69	+	0.00)	×	0.9	×	1.00	×	1.00	=	8.86

E表：部分存在耐力の算定

- ・改修部分の保有耐力を計算します。
- ・「基準耐力シート」で入力した『要素番号』毎の各耐震要素の長さ[L(m)]を入力して下さい。

検討位置	要素番号	(F _w [kN/m] × 長さ(L) [m] × K _j)	Q _{wi} [kN]	Σ Q _{wi} [kN]
X方向	01:既存壁1	(5.8 × 1.97 × 0.65)	7.42	15.88
	02:既存壁2	(4.7 × 1.97 × 0.70)	6.48	
	03:既存壁3	(2.0 × 0.99 × 1.00)	1.98	
		(× ×)		0.00
		(× ×)		
		(× ×)		
		(× ×)		
部分存在耐力 (X方向)	(Σ Q _{wi} (既存) × eK _{fl} × dK _b) + (Σ Q _{wi} (改修) × eK _{fl} × dK _a)			合計
	(15.88 × 1.00 × 0.70) + (0.00 × 1.00 × 1.00)			= 11.11
検討位置	要素番号	(F _w [kN/m] × 長さ(L) [m] × K _j)	Q _{wi} [kN]	Σ Q _{wi} [kN]
Y方向	01:既存壁1	(5.8 × 2.96 × 0.65)	11.15	11.15
		(× ×)		
		(× ×)		
		(× ×)		0.00
		(× ×)		
		(× ×)		
		(× ×)		
部分存在耐力 (Y方向)	(Σ Q _{wi} (既存) × eK _{fl} × dK _b) + (Σ Q _{wi} (改修) × eK _{fl} × dK _a)			合計
	(11.15 × 1.00 × 0.70) + (0.00 × 1.00 × 1.00)			= 7.80

F表：部分評点の判定・・・入力不要：自動計算

X方向	存在耐力 / 必要耐力 = 11.11 / 8.86 = 1.25
Y方向	存在耐力 / 必要耐力 = 7.80 / 8.86 = 0.88

【判定シート2012】 【改修計画】

のセルにのみ入力してください。

名称 建築太郎邸部分評点計算書
作成者 安心 丈夫

C表：諸条件入力欄

建物仕様	2:重い建物	積雪割増	なし	1F面積①	72.77	m ²	算定範囲の面積	15.52	m ²
建物階数	2:2階建て	積雪深(m)		2F面積②	34.93	m ²	配置係数 _e K _{fl} 【改修後】	X	1.00
基礎仕様	2:基礎Ⅱ	軟弱地盤	なし	R _{fl} (②÷①)	0.48			Y	1.00
接合部仕様	4:接合部Ⅳ	形状割増	なし	q _{Kfl} 【表1参照】	0.69		劣化係数 _d K _b 0.9を上限とする		0.7

D表：部分必要耐力の算定【表1参照】 入力不要：自動計算

算定範囲の面積	×	(係数	×	q _{Kfl}	+	積雪割増)	×	地震地域係数	×	地盤割増	×	形状割増	=	必要耐力
15.52	×	(0.92	×	0.69	+	0.00)	×	0.9	×	1.00	×	1.00	=	8.86

E表：部分存在耐力の算定

- ・改修部分の保有耐力を計算します。
- ・「基準耐力シート」で入力した『要素番号』毎の各耐震要素の長さ[L(m)]を入力して下さい。

検討位置	要素番号	(F _w [kN/m] × 長さ(L) [m] × K _j)	Q _{wi} [kN]	Σ Q _{wi} [kN]
X方向	既存壁	02:既存壁2 (4.7 × 1.97 × 0.70)	6.48	8.46
		03:既存壁3 (2.0 × 0.99 × 1.00)	1.98	
		(× ×)		
	改修壁	11:改修壁1 (6.2 × 1.97 × 0.75)	9.16	9.16
		(× ×)		
		(× ×)		
	部分存在耐力 (X方向)			
(Σ Q _{wi} (既存) × eK _{fl} × dK _b) + (Σ Q _{wi} (改修) × eK _{fl} × dK _a)				
(8.46 × 1.00 × 0.70) + (9.16 × 1.00 × 1.00)				= 15.08
Y方向	既存壁	(× ×)		0.00
		(× ×)		
		(× ×)		
	改修壁	11:改修壁1 (6.2 × 2.96 × 0.75)	13.76	13.76
		(× ×)		
		(× ×)		
	部分存在耐力 (Y方向)			
(Σ Q _{wi} (既存) × eK _{fl} × dK _b) + (Σ Q _{wi} (改修) × eK _{fl} × dK _a)				
(0.00 × 1.00 × 0.70) + (13.76 × 1.00 × 1.00)				= 13.76

F表：部分評点の判定・・・入力不要：自動計算

X方向	存在耐力 / 必要耐力 = 15.08 / 8.86 = 1.70 ≥ 1.5 →判定:	OK
Y方向	存在耐力 / 必要耐力 = 13.76 / 8.86 = 1.55 ≥ 1.5 →判定:	OK